授業科目　構音障害Ⅲ（運動）

【担当教員名】	対象学年	3	対象学科	言語
杉山　貴子	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

【<概要>又は<一般目標：ＧＩＯ>】

運動障害性構音障害とは、中枢から末梢にいたる神経・筋系のいずれかの病変による構音器官の運動障害で起こる構音障害の総称です。話しことばの産生には、呼吸、発声、構音など多くの機能が関与しており、その理解には生理学、神経学、病理学の知識が不可欠となりま これまでに学んできた知識を基に、運動障害性構音障害の体系的治療へとつなげられるように学習を進めます。

【<学習目標>又は<行動目標：ＳＢＯ>】

・ことばの産生にかかわる諸機能について確実に理解する。
・神経系に由来する構音障害の特徴を把握する。
・神経機構および運動の病態に基づいた構音治療プログラムを立てられるようにする。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	運動障害性構音障害とは：定義と原因疾患		
2	臨床の枠組み：評価・治療の流れ		
3	ことばの産生：言語音産生のメカニズム		
4	運動障害性構音障害の病態（1）：原因疾患とその病態/構音障害の特徴		
5	運動障害性構音障害の病態（2）：原因疾患とその病態/構音障害の特徴		
6	運動障害性構音障害の臨床（1）：治療の実際（1）		
7	運動障害性構音障害の臨床（2）：治療の実際（2）		

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書（必ず購入する書籍）	言語聴覚士のための運動障害性構音障害	廣瀬・柴田・白坂	医歯薬出版	2001　5000円
参考書	言語病理学を学ぶ人のための基礎神経学	Love著田中・相馬監訳	西村書店	2002
	運動性構音障害	Darley著　柴田訳	医歯薬出版	1982
その他の資料				

【評価方法】	【履修上の留意点】
平常の学習状況 定期試験	

言語聴覚学科　専門